

高齢者福祉・介護に関するアンケート調査結果報告書（速報版）

目次

調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査対象	1
3 調査期間	1
4 調査方法	1
5 回収状況	1
調査結果	2
1 調査回答者	2
2 調査対象者	2
(1) 性別	2
(2) 年齢	2
(3) 就労状態	3
(4) 要介護度	3
3 生活の状況	4
(1) 家族構成	4
(2) 介助の必要性	4
(3) 週1回の外出について	5
(4) 健康状態	5
4 認知症について	6
(1) 認知症イメージ	6
(2) 身近に認知症状がある人はいるか	6
(3) 認知症のご本人の変化に誰が最初に気づきましたか（居宅サービス利用者）	7
(4) 認知症に気づくきっかけ（居宅サービス利用者）	7
(5) 自分が認知症になったときの不安	8
(6) 家族が認知症になったときの不安	9
(7) 利用したい認知症施策	9
(8) 充実してほしい認知症施策	10
5 犬山市の高齢者施策全般について	11
(1) 元気で生活するためにしている活動	11
(2) 充実してほしい高齢者施策	12

調査概要

1 調査目的

本市では、健康で健康で生きがいのある長寿社会の実現を目指して、高齢者福祉計画・介護保険事業計画、認知症施策推進計画を策定し、高齢者福祉や介護保険事業を推進しています。

令和9年度から始まる新たな計画を策定するにあたり、市民の生活実態や自立した生活を送るうえでの課題等を把握し、地域に適した施策を推進するため、アンケート調査を実施しました。

2 調査対象

○一般高齢者向け調査

65歳以上、総合事業対象者、要支援認定者のいずれかに該当する方 2,000名

○居宅サービス利用者

要介護認定を受けて、在宅で介護保険サービスをご利用されている方 500名

3 調査期間

令和7年11月25日（火）～12月16日（火）

4 調査方法

郵送配布・郵送回収及びWEB回答

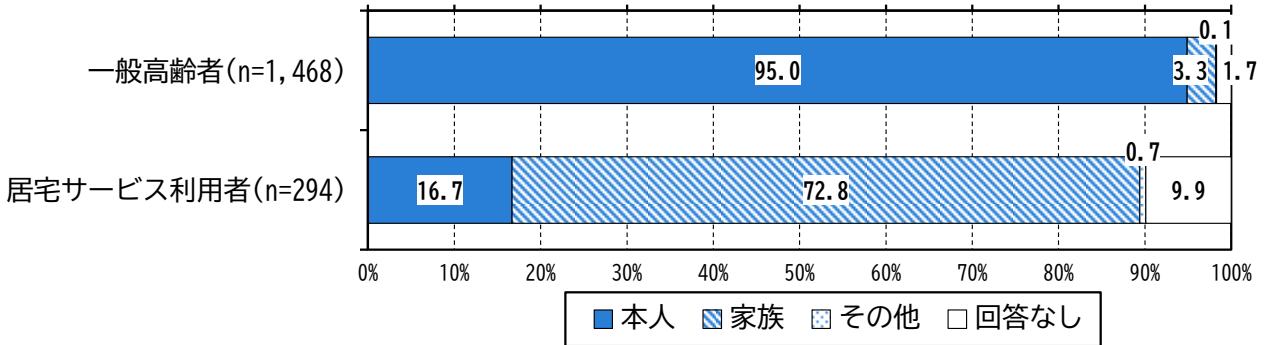
5 回収状況

	配布数	有効回収数	有効回収率	前回調査回収率
一般高齢者	2,000	1,468	73.4%	68.5%
居宅サービス利用者	500	294	58.8%	41.2%

調査結果

1 調査回答者

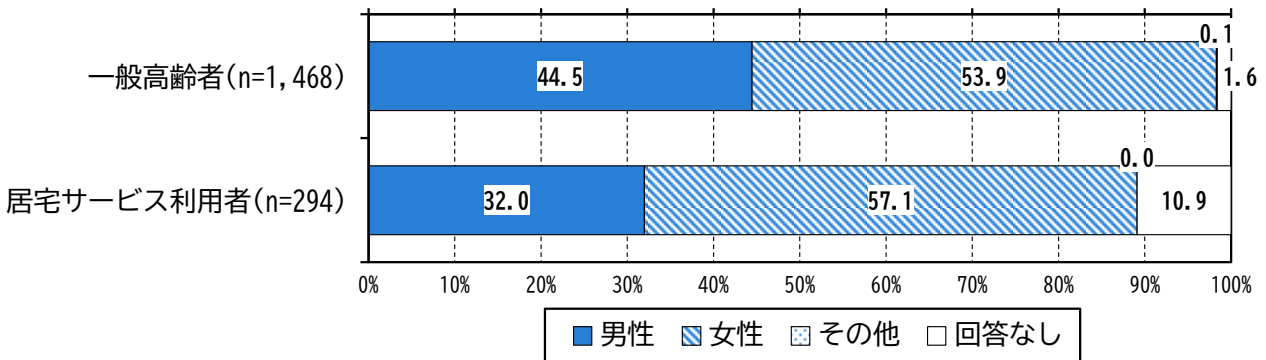
一般高齢者は「本人」が95.0%、居宅サービス利用者は「家族」が72.8%



2 調査対象者

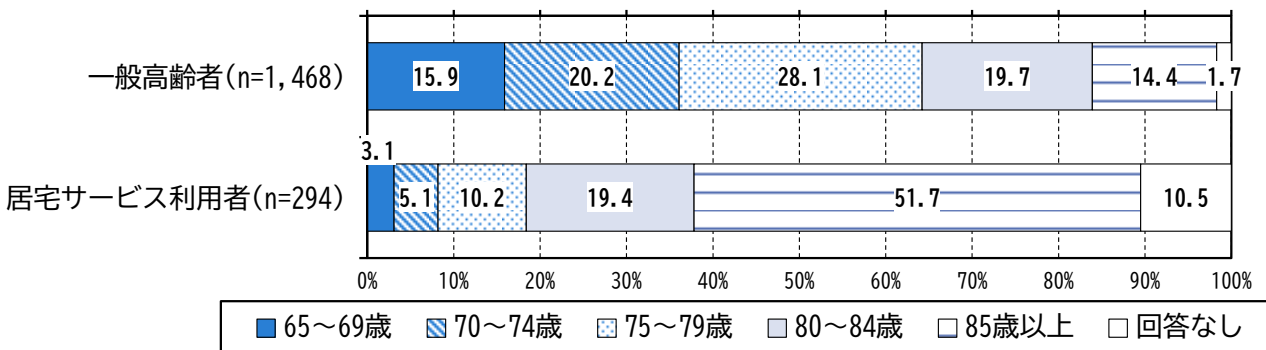
(1) 性別

一般高齢者も居宅サービス利用者も女性が半数以上を占める。



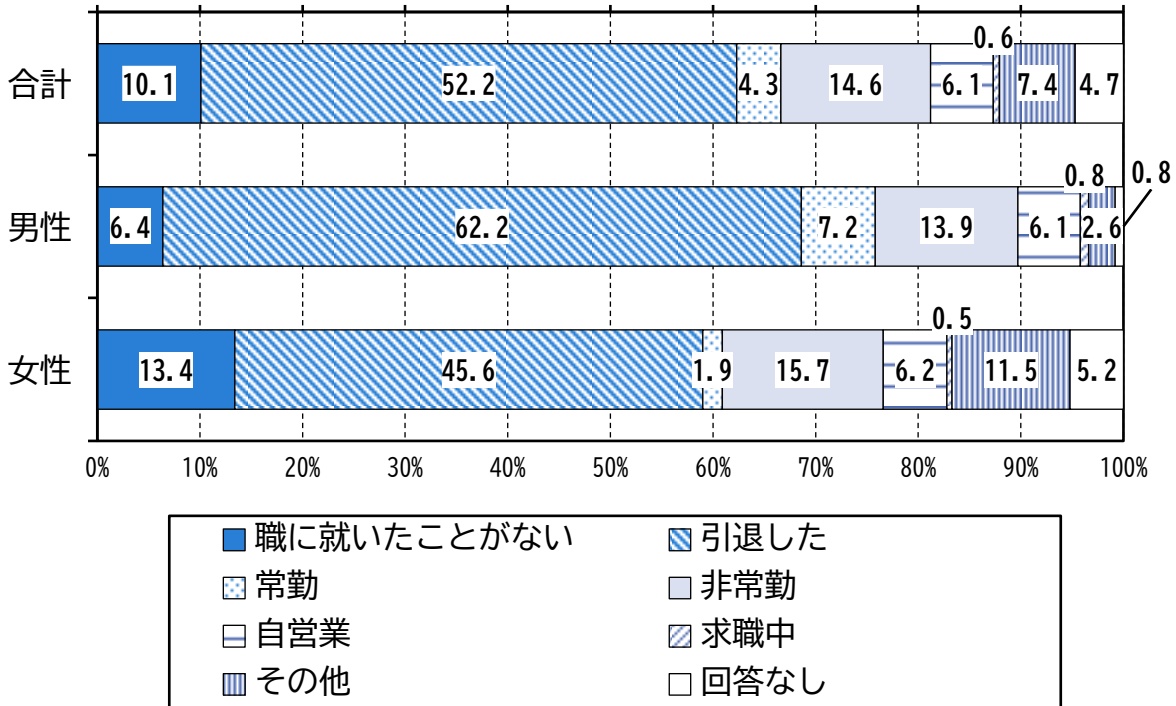
(2) 年齢

一般高齢者は「75～79歳」が28.1%と最も多く、居宅サービス利用者は「85歳以上」が半数以上を占める。



(3) 就労状態

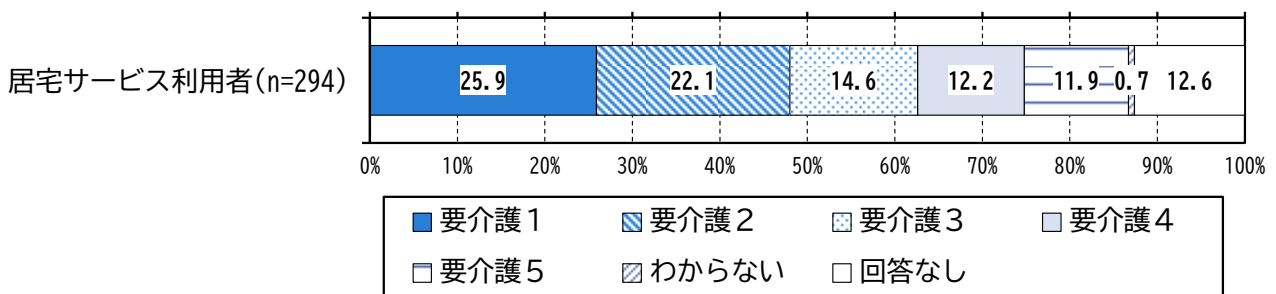
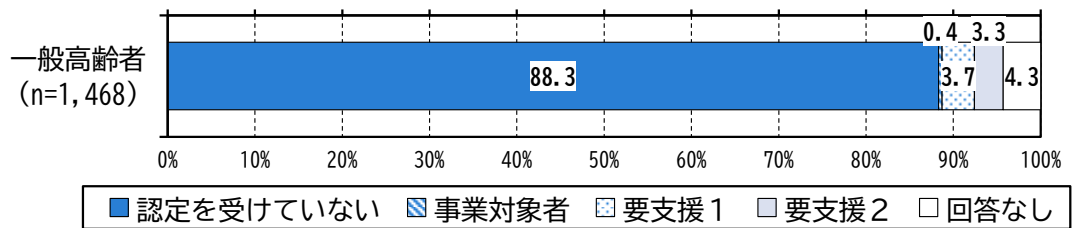
男女とも、「引退した」が最も多い。女性は「職に就いたことがない」が男性よりも高くなっている。



(4) 要介護度

一般高齢者は「認定を受けていない」が最も多い。

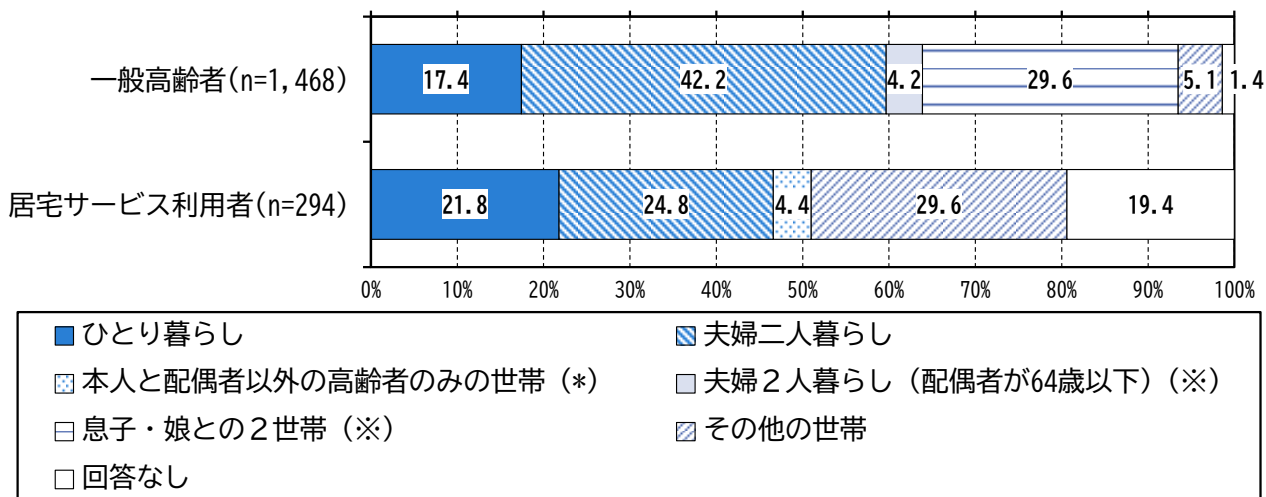
居宅サービス利用者は、「要介護1」が最も多く、重度になるほど比率は下がる。



3 生活の状況

(1) 家族構成

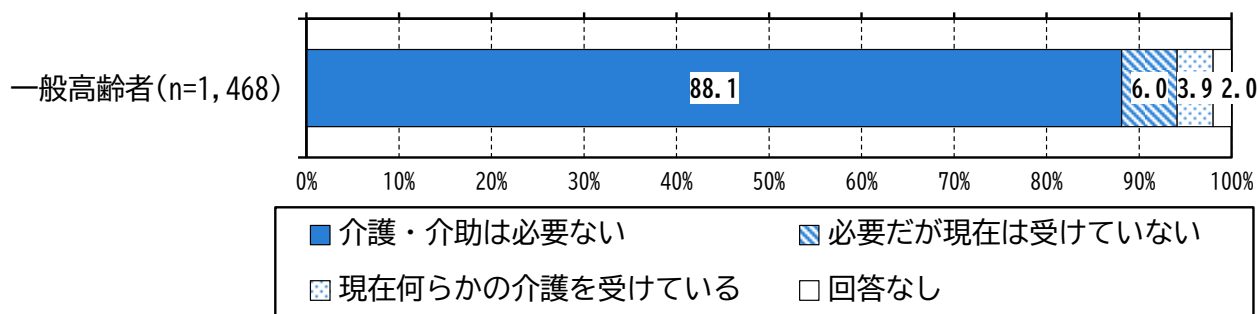
一般高齢者は「夫婦二人暮らし」、居宅サービス利用者は「その他の世帯」が最も多い。



注) (※) は一般高齢者のみの選択肢。(*) は居宅サービス利用者のみの選択肢。

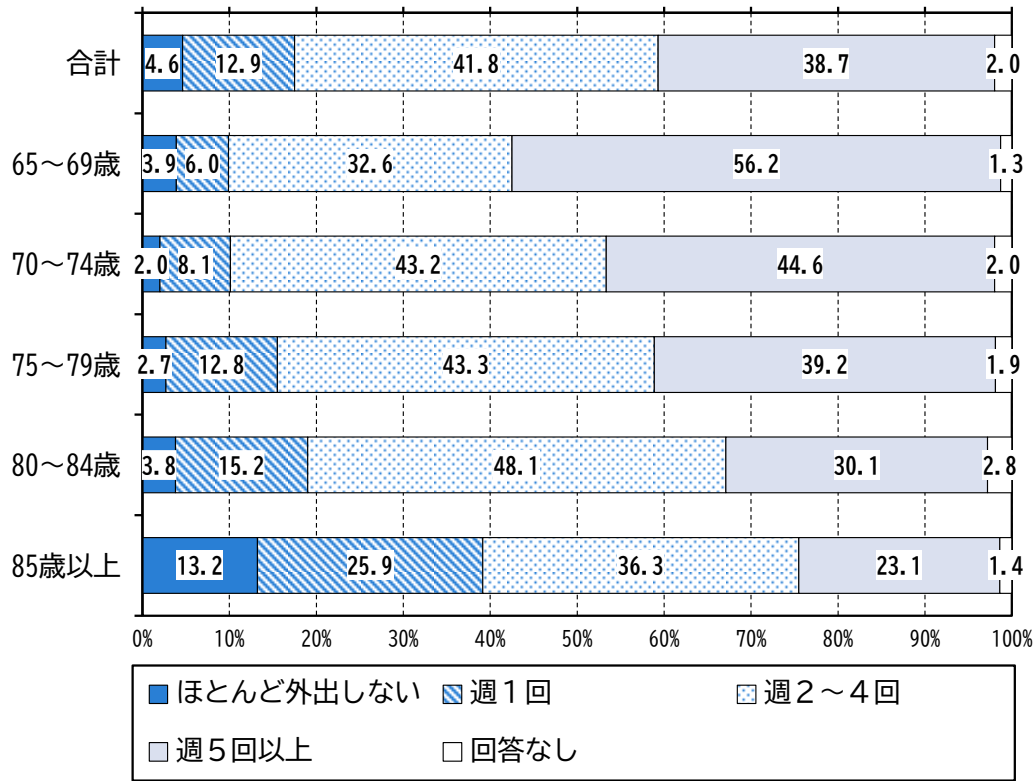
(2) 介助の必要性

一般高齢者は「介助の必要性がない」は88.1%



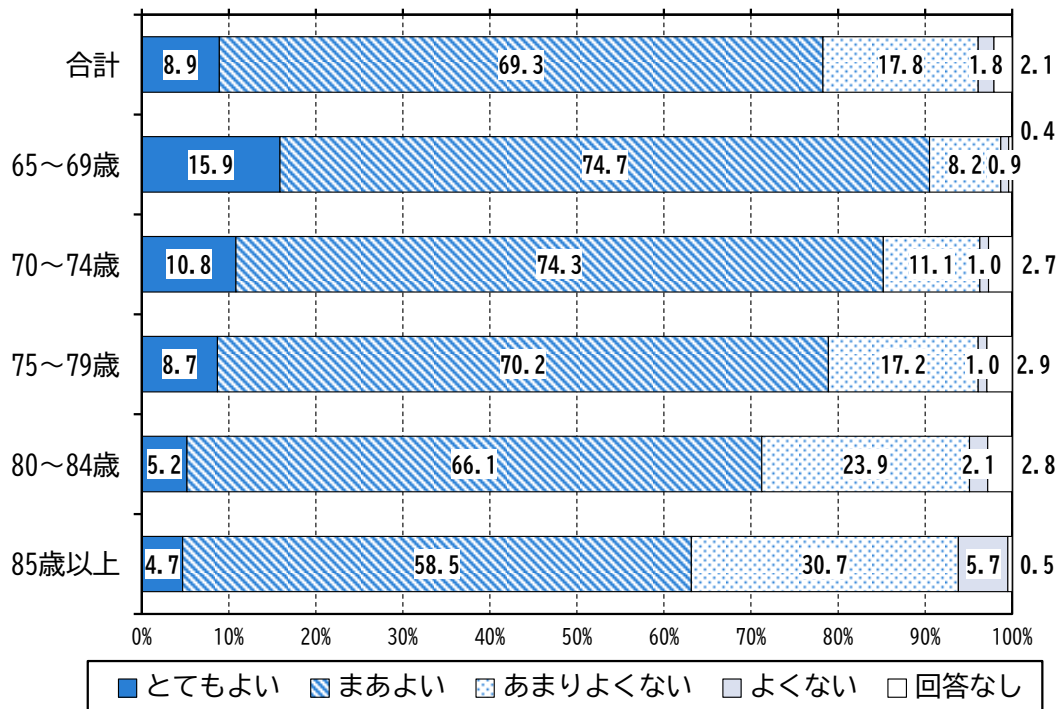
(3) 週1回の外出について

年齢が上がるほど週1回以下の外出頻度となり、85歳以上では39.1%



(4) 健康状態

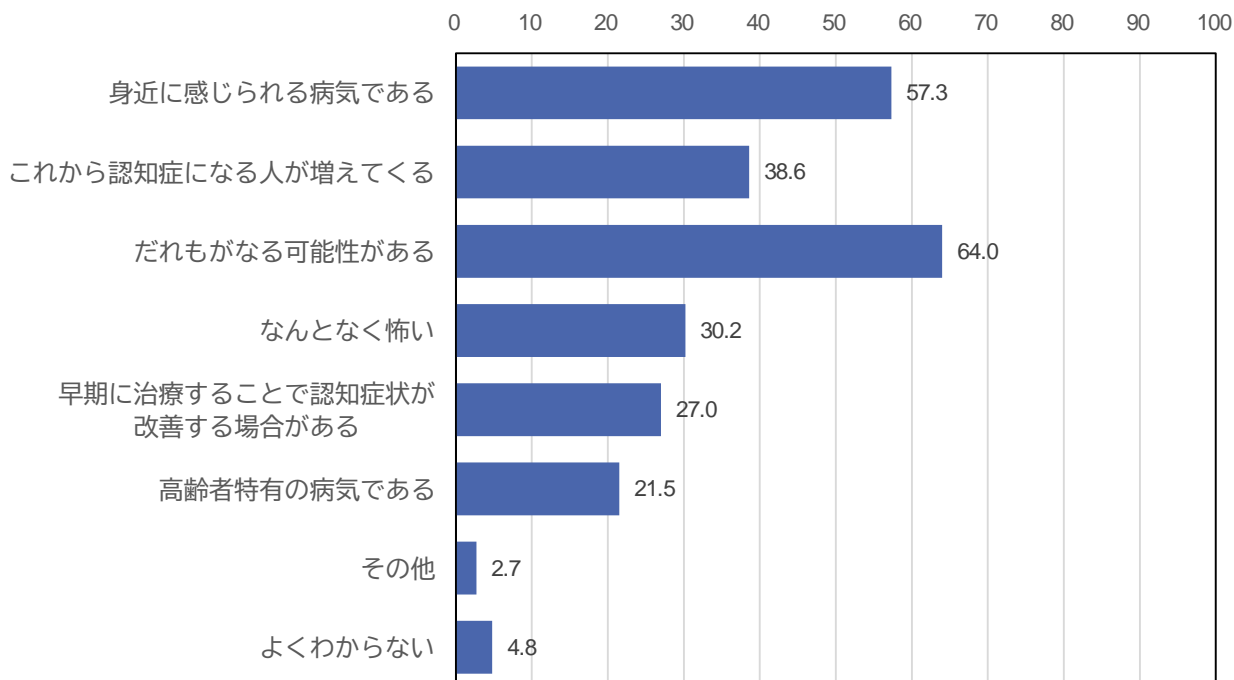
健康状態は年齢が上がるにつれて“よくない”が増える。



4 認知症について

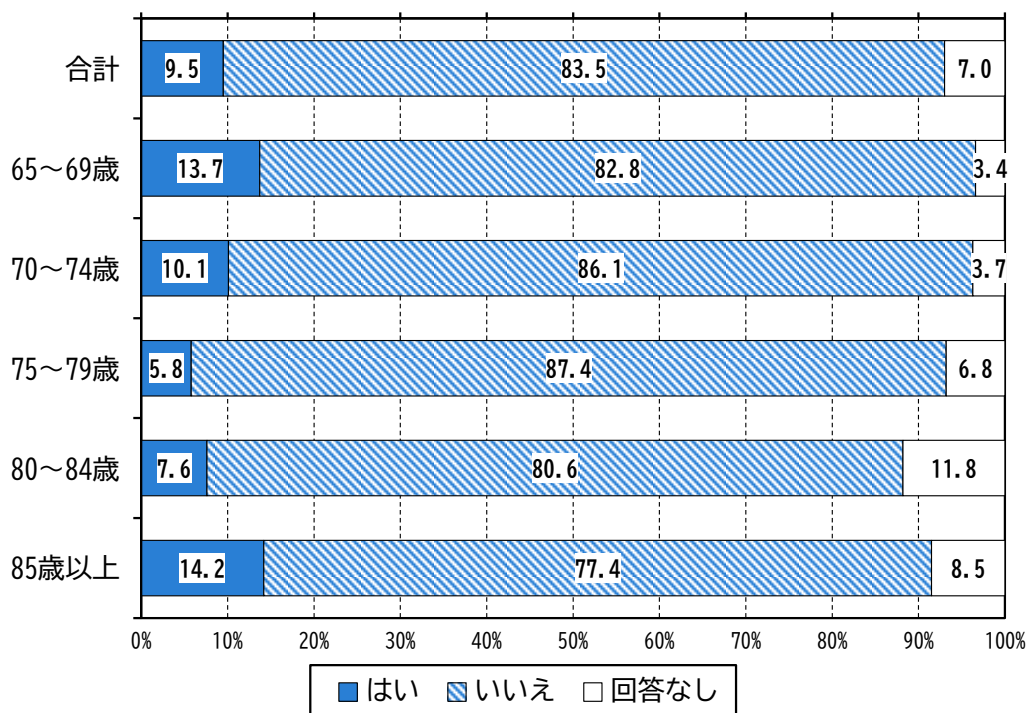
(1) 認知症イメージ

認知症は「だれもがなる可能性がある」「身近に感じられる病気」が6割前後を占める。



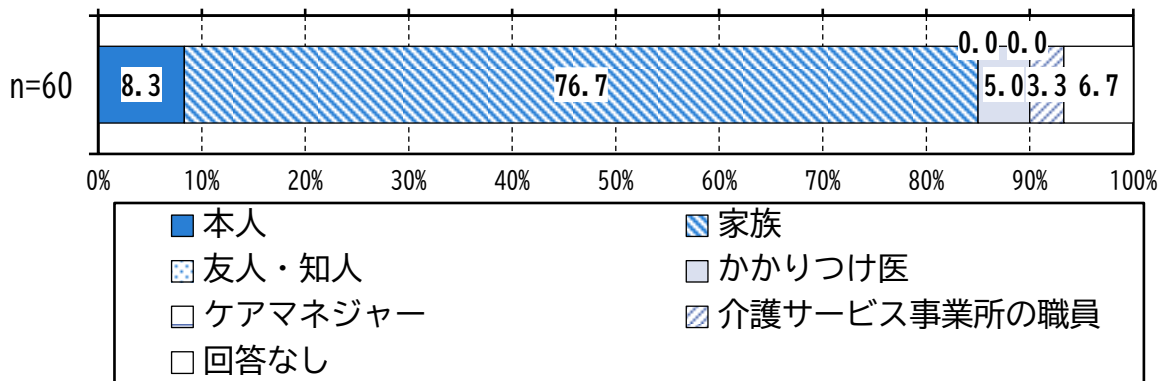
(2) 身近に認知症状がある人はいるか

認知症状がある人が身近にいる割合は9.5%



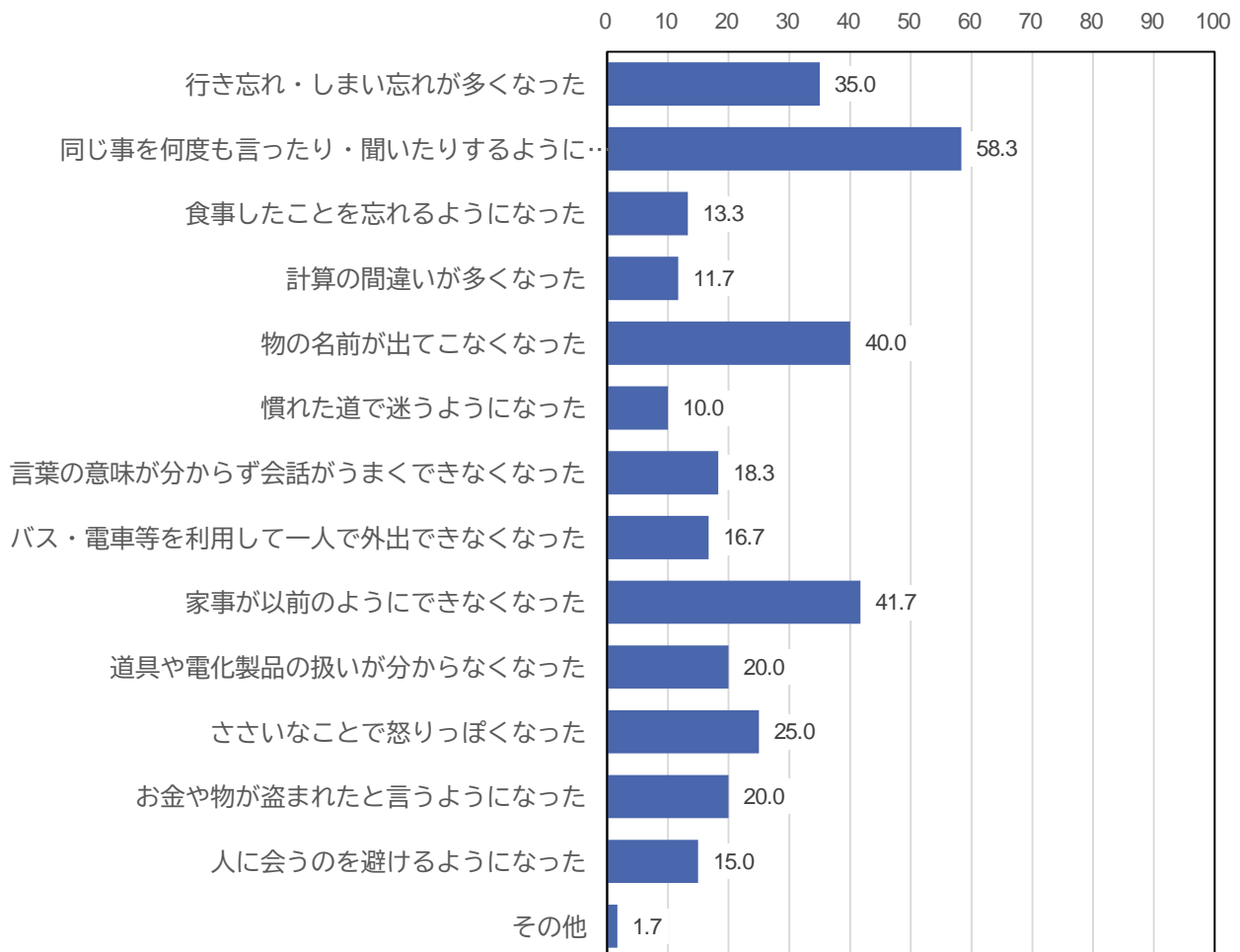
(3) 認知症のご本人の変化に誰が最初に気づきましたか（居宅サービス利用者）

認知症の変化に気づいたのは「家族」が76.7%



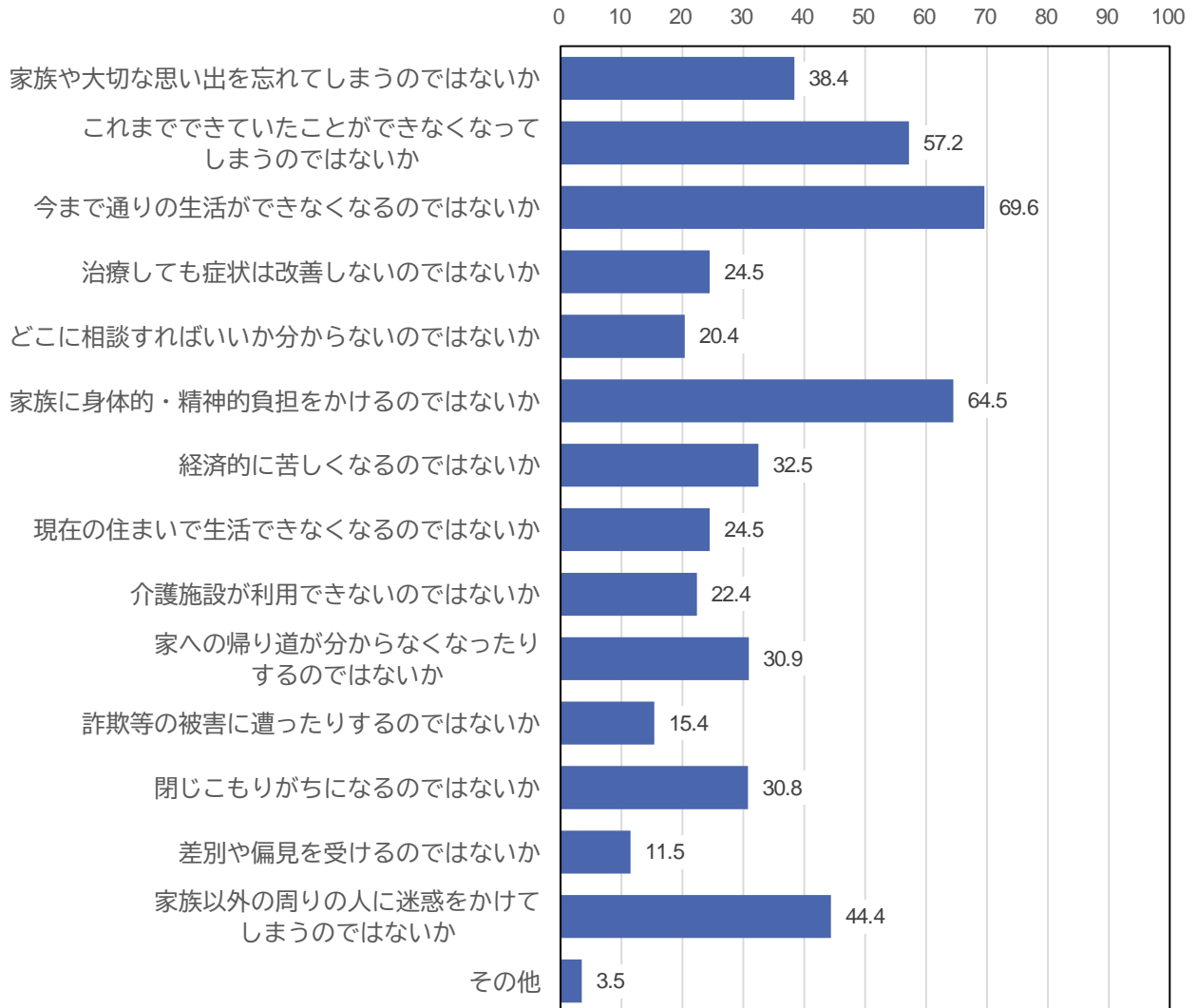
(4) 認知症に気づくきっかけ（居宅サービス利用者）

「同じ事を何度も言ったり、聞いたりするようになった」が58.3%



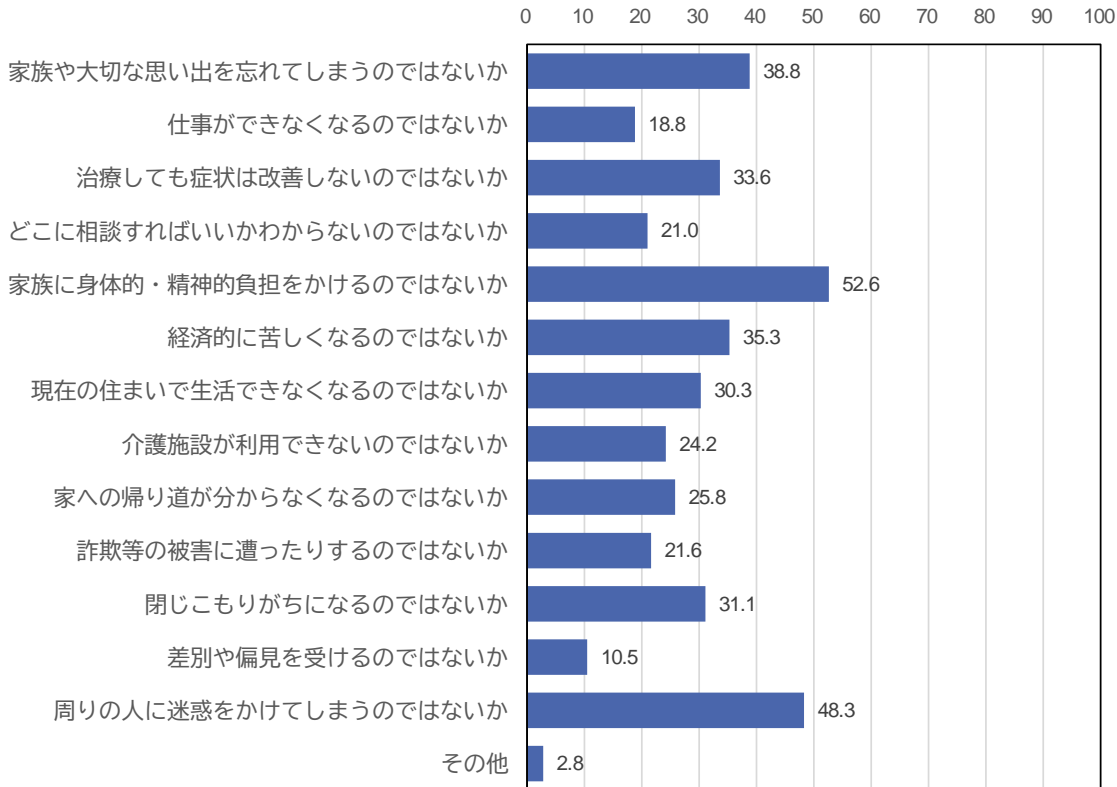
(5) 自分が認知症になったときの不安

自分が認知症になったときの不安は「今まで通りの生活ができなくなる」「家族に負担をかける」が多くなっている。



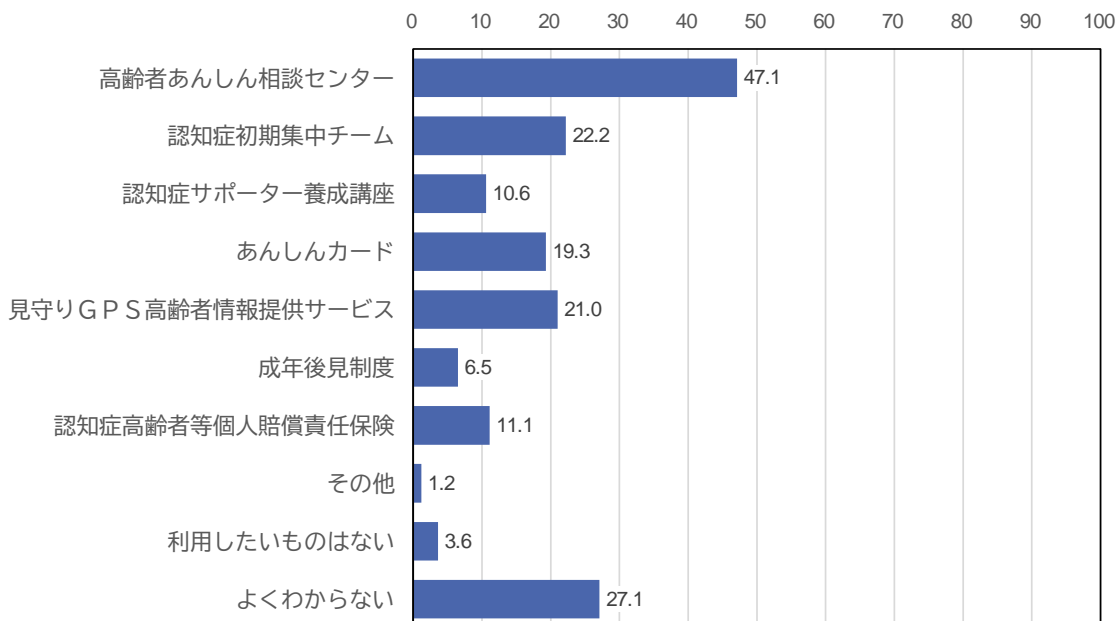
(6) 家族が認知症になったときの不安

家族が認知症になったときの不安は「家族に負担をかける」「周囲に迷惑をかける」が多い。



(7) 利用したい認知症施策

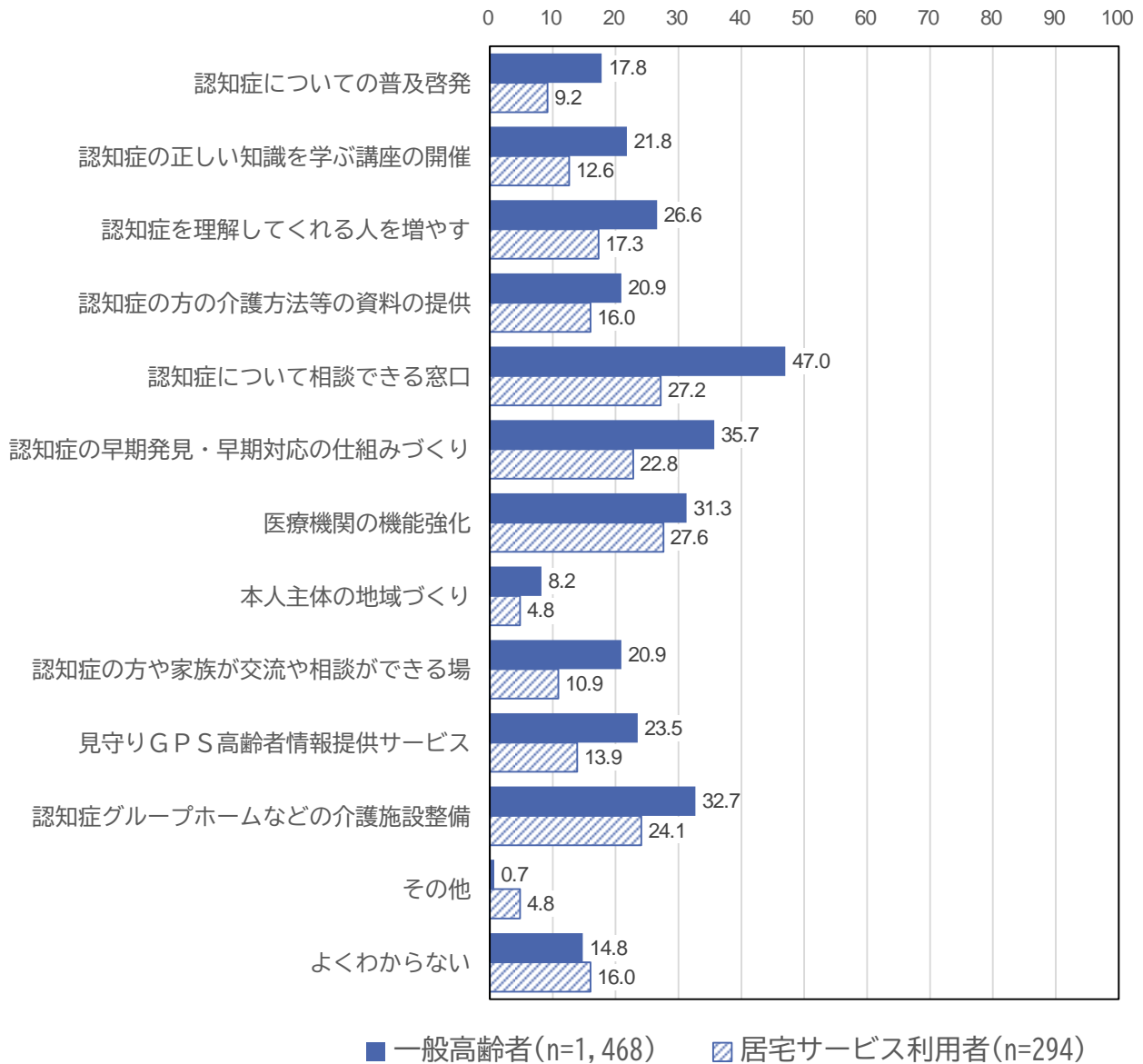
利用したい認知症施策は「高齢者あんしん相談センター」が47.1%と最も多い。



(8) 充実してほしい認知症施策

一般高齢者が充実してほしいというほとんどの施策で多くなっている。特に「認知症について相談できる窓口」が47.0%と半数近くを占める。

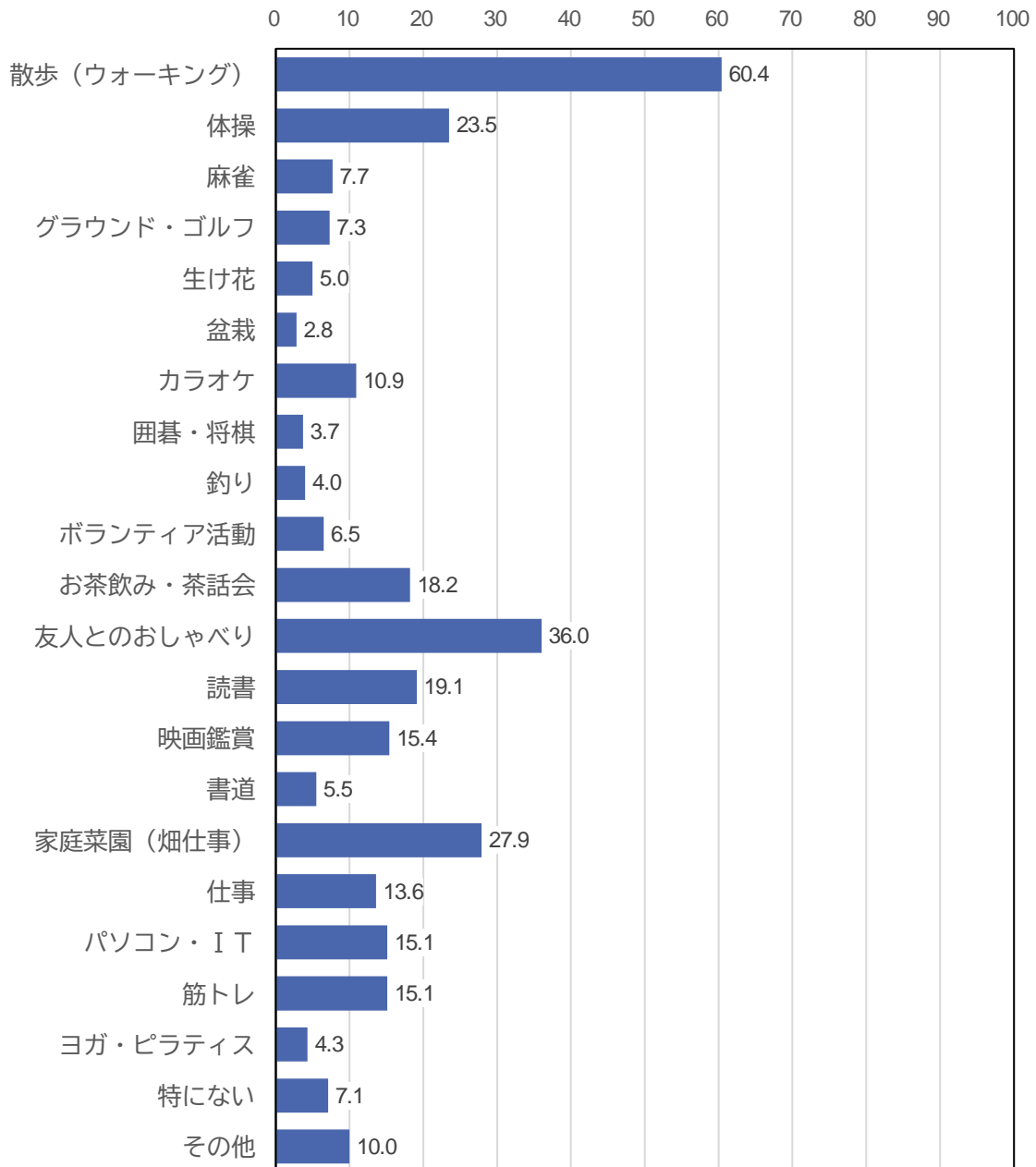
居宅サービス利用者は「医療機関の機能強化」が最も多い。



5 犬山市の高齢者施策全般について

(1) 元気で生活するためにしている活動

元気で生活するために「散歩（ウォーキング）」が最も多く 60.4%



(2) 充実してほしい高齢者施策

一般高齢者は「医療の充実」が最も多く、「医療・介護・住まい等の総合的な体制の充実」「健康づくりと介護予防の推進」「家族介護に対する支援」「介護サービスの充実」が多い。

居宅サービス利用者は「家族介護に対する支援」が46.9%と最も多く、「介護サービスの充実」「医療・介護・住まい等の総合的な体制の充実」「高齢者生活支援事業の充実」が多くなっている。

